

気仙沼普及センターだより

宮城県気仙沼農業改良普及センター

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6

TEL : 0226-25-8068 FAX : 0226-22-1606

Vol: 153

令和5年3月1日発行

ひとつずつ 明日と未来の ふるさとへ!



クロマツの収穫作業



収穫時期のいちごほ場



営農組織への電気柵管理指導



気仙沼合同庁舎に設置されたRTK基地局

今年度の活動と

スマート農業の推進について

総括技術次長 猪野 亮

今年も早いもので、三月を迎え、本格的な農作業が始まる時期となりました。

去る二月六日、普及活動を計画的かつ効率的、効果的に実施するため、農業者や関係機関等の外部委員（普及活動検討委員）から御意見等をいただく「令和四年度第二回普及活動検討会」を開催しました。検討会では、正月飾り等に利用される「枝もの用クロマツ」の産地化や、環境データの活用等による「いちご」の収量向上、営農組織内における将来の姿「将来ビジョン」の共有など、今年度の実績等について御説明し、普及活動への評価と今後の活動に対する御助言を賜りました。各委員の皆様方からの貴重な御意見等につきましては、今後の普及活動に活かしていく所存でございます。

宮城県では、農業分野におけるICT技術（情報通信技術）等を活用したスマート農業を推進しており、今年度、県内七か所にRTK基地局（位置の測定精度を向上させるための地上基地局）を設置して、県内全域を範囲とした通信環境の整備を行いました。令和五年四月からの運用開始（三月はテスト運用）に向けて、RTK基地局を利用するマルチローター（ドローン）や、自動操舵システム付き農業機械（トラクター、田植機等）等の導入・活用促進が進められています。

最後に、地震や台風、豪雨等の自然災害に加えて、燃油や農業用資材の高騰、また、高病原性鳥インフルエンザの発生等、農業経営への深刻な影響が更に懸念されていますが、普及センターでは、農業経営の安定化に向けて、農業者の皆様と共に取り組んでまいりますので、お気軽に御相談いただければ幸いです。

今年度の普及活動実績

1 市場等ニーズに応じた花き・花木生産による経営発展

【対象】株式会社南三陸Pine Pro (パインプロ)

①経営発展に向けた体制整備支援

園芸作物サプライチェーン推進事業によりクロマツの出荷調製施設導入の支援を行い、今年度末に完成することができました。来年度には施設を有効に活用するための作業の動線確認や調製作業の効率化などを計画しています。

また、クロマツを栽培するほ場確保のため、気仙沼市小泉地区の農業法人とのマッチングを行いました。

来年度からほ場の一部を利用して、クロマツ栽培が行われる計画です。



小泉地区の農地を見学している様子

②クロマツの生産安定支援

クロマツ栽培は、播種、除草、収穫調製等が手作業で身体への負担が大きいため、作業の機械化や省力化について検討を行いました。

播種には電動播種機の導入、除草には難防除雑草に有効な除草剤の活用の可能性について検討、収穫調製には農機具メーカーの協力を得て試作機を作っていました。

今年度は、作業改善の準備段階までの取組が多かったため、来年度にはこれらの改善案を導入し、大幅な作業改善を期待しています。

今年度からの本格的な出荷に向け、80aのクロマツを収穫しましたが、商品化率を高めるため、市場担当者との協議しながら、収穫物に合わせた出荷規格を検討した結果、昨年よりも約30%向上させることができました。



雑草発生量と種類確認の様子

③きくの需要期計画生産技術向上支援

きく栽培のうち、盆（8月）や彼岸（9月）の需要期安定出荷を確立するため、当地域における露地電照栽培に適した電照期間及び適期開花品種を選定しました。来年度は選定した品種の栽培に取り組む予定です。

2 いちごの栽培技術レベルアップによる収量向上

【対象】階上いちご第2復興生産組合、シーサイドファーム波路上株式会社

①基本的栽培技術習得支援

適期の栽培管理をまとめた「気仙沼いちご便り」を月1回程度発行し、年間を通して栽培技術の習得へ向けた指導を行いました。計画的な作業の実施を支援することで、単価の高い冬期の収量を増加させることができました。

②先進的技術を用いた収量向上支援

ハウス内の温度・湿度・二酸化炭素濃度等の環境データを測定し、集積したデータを1週間分とりまとめ、経過を振り返りながら栽培管理に活かせるよう支援しました。昨今の肥料・燃料価格高騰を踏まえ、適正な養液や温度管理を遵守し、“ムダ”のない栽培管理が行われました。

③生産者間交流支援

農業メーカーの技術担当者を講師に迎え農業研修会を開催し、生産者同士で活発に質問や意見交換が行われ、病害虫防除に対する理解が深まりました。

また、地域の生産者の協力を得て、ほ場を相互に見て回る交流会を開催することで、栽培管理を客観的に考える機会を創出することができました。

上記①から③の活動により、前年比で10%以上収量が向上しました。



データを活用した栽培管理の様子



いちご農業研修会の様子

今年度の普及活動実績

3 持続的な地域営農の実現に向けた担い手の経営安定

【対象】田表機械利用組合(組合員及びオペレーター)

①将来ビジョンの作成及び経営管理能力向上支援

組合の役員と組合の今後について話してみると、組合員それぞれが問題意識を持っているが、組合として明確に整理・共有はされていない状況でした。そこで、組合の課題解決に向けた現状整理を行うため、組合員アンケートを実施しました。アンケート結果では、担い手の確保が課題だという組合員の共通認識があることが分かりました。この結果を基に、組合長を中心に話し合いを行い、課題解決に向けて、若手が働きやすい体制づくりや所得向上を図るため、組合員が方向性を共有することができました。また、若手農業者の経営管理向上を目指し、記帳入力支援や、作目ごとの収益性や労働生産性を整理して経営計画を作成しました。その実現に向けて、収益性の高い作物の拡大を検討する等、意識が高まっています。

②栽培技術向上支援

巡回を中心に、土壌分析結果に基づいた土づくりや栽培管理指導等を行いました。水稻では10a当たり収量が、令和3年は390kgから令和4年は450kgと向上しました。また、多品目栽培を行う若手農業者は、品目ごとに月ごとの労働時間を整理し、適期作業ができない時期が分かりやすくなり、次年度以降の計画的な管理作業に向けて意識が高まりました。

③地域と連携した鳥獣対策取組支援

電気柵管理研修会、放任果樹対策を目的とした柿の実の除去作業を行いました。特に、電気柵管理研修会では、講師と組合役員等と一緒に電気柵の設置状況を見て、電圧の低下原因やワイヤーの適正な設置高等についてアドバイスしていただき、営農継続に向けて効果的な被害対策技術を習得し、地域ぐるみでの鳥獣対策に向けて機運が高まりました。



定期巡回の様子



電気柵管理研修

新規就農者紹介

阿部 高裕氏

阿部高裕さんは、令和4年4月に南三陸町戸倉地区で就農しました。以前から農業に興味があったこと、収益性が高いセリ栽培に魅力を感じ、就農を決心しました。就農にあたっては、関係機関に相談しながら、先進地である石巻市河北地区の農家に出向き、技術習得に励みました。

就農後は約20aの水田でセリ栽培を始め、管内のセリ栽培農家も集まった栽培研修会の会場になるなど、順調な生育が確認されました。

試行錯誤しながらの就農1年目でしたが、家族の協力もあり、令和4年11月には初出荷を迎えることができました。今後は、栽培技術も高めながら、規模拡大を図りたいとますます意欲が高まっています。



セリ栽培研修会の様子

法人紹介

株式会社アグリファーム原ノ沢

設立 令和2年3月4日 **代表取締役** 鈴木 敏榮 氏
概要 気仙沼市階上地区で水稻10ha、枝豆3ha、ほうれんそう15aの生産を行っています。飼料用米の新規作付け、在来品種の「気仙沼茶豆」栽培、春告げやさいの取組など、遊休農地を解消するため、設立当初から作付け規模を拡大しています。

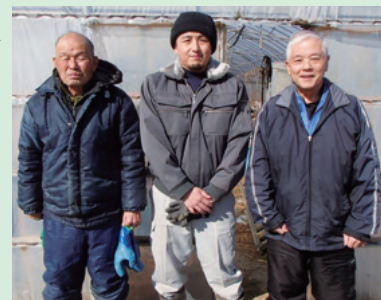
今年度は若手の従業員を雇用し、農業経営の継続的な発展を目指した技術・経営承継にも積極的に取り組んでいます。

●代表より一言

技術を引き継ぎながら、若い方に農業を続けてもらえる基盤を作りたい。

●若手職員の抱負

まずは教わったことを覚えて、知識・技術を身につけていきたい。



トピックス

第2回気仙沼地区みやぎ農業未来塾



ワイナリーを見学する様子

令和4年12月14日、「気仙沼地区みやぎ農業未来塾」を開催しました。未来塾には、本吉響高校で農業を専攻する生徒4名が参加し、南三陸町の新規就農者と農業法人を訪問し視察研修を行いました。

1か所目は、自ら栽培した農産物を利用してクレープの製造・販売を行う大沼ほか氏の取組を視察しました。大沼氏から、就農に至ったきっかけや将来大好きな地元の農村風景を見ながらのんびりできる農園カフェを開きたいこと等についてお話しいただきました。2か所目は、ぶどうの栽培からワインの製造・販売を行う南三陸ワイナリー株式会社の代表取締役 佐々木道彦氏の取組を視察しました。醸造所を見学し、ワインを通じて地元の様々な企業とのつながりができ、地域に賑わいを生み出していきたいこと等についてお話しいただきました。

将来の夢を楽しそうに話す大沼氏や、南三陸とつながり、賑わいを作りたいと熱く語る佐々木代表取締役に触発されたのか、生徒の皆さんからたくさんの質問が出され、それぞれの心に強い印象が残る未来塾となりました。

直売所アドバイザー派遣事業

JA新みやぎ気仙沼農産物直売所「菜果好」では、更なるサービス向上を目指し、全国の直売所に詳しい専門家として有限会社ベネットの青木代表取締役をお招きして、アドバイスを受けました。

全3回のうち第2回目となる令和4年12月1日の講習会では、青木代表取締役より全国の直売所で人気のある加工品の事例を紹介いただき、菜果好での加工品はどうか、もっと多くの人に手に取ってもらうにはどのような取組ができるのか、助言を受けました。参加者からは、POP作りや、生産者と消費者の距離が縮まるように、加工品ができるまでのストーリーをアピールしてみてもどうか、と多くの意見が出るなど、熱い議論を交わしていました。

アドバイスを受けて、店内での買い物がしやすくなるように、買い物カゴは一回り大きく、買い物カートは少しコンパクトになりました。是非お試しください。



熱い議論が交わされました

今年度3回目のシャインマスカット栽培研修会を開催しました

管内ではシャインマスカットの栽培が拡大しており、新規栽培者や栽培希望者も増加傾向にあります。

令和5年1月17日、南三陸町において今年度3回目となるシャインマスカット栽培研修会を開催し、管内のぶどう生産者13名が参加しました。宮城県農業・園芸総合研究所花き・果樹部の庄子雅和研究員を講師に迎え、第1回の「無核化处理」、第2回の「摘粒」に続いて、今回は冬季の重要な栽培管理である「せん定」についての研修を行いました。講師から短梢せん定方法について実演を交えながら説明があった後、参加者によるせん定の実習を行いました。参加者は、講師からの説明を熱心に聞き、実習では講師の指導のもと集中してせん定を行う姿が見られました。せん定やその他の栽培管理についても多くの質問が寄せられ、とても有意義な研修会となりました。



講師の説明に聞き入る参加者

農業法人経営に関する研修会を開催しました



研修会の様子

国際情勢の不安定化に伴う資材高騰など厳しい情勢が続く中、農家経営の安定化には、技術的な対策だけでなく、費用対効果を考慮した総合的な経営戦略が必要となっています。

12月14日に開催した研修会では、株式会社舞台ファームの伊藤啓一専務取締役を講師にお招きし、「農業法人経営の戦略」と題して御講演いただきました。講演では、「新しい価値を作り出す」ための、マーケティングの考え方や「イノベーション」など、具体例を基にした経営戦略の思想を語っていただきました。参加した管内の経営者からは、積極的な質問が寄せられ、経営の高度化に向けた議論が盛り上がることも、講演内容や他経営体との交流をとおして「刺激になった」との感想をいただきました。

また、令和5年の10月から開始される消費税インボイス制度について、気仙沼税務署の石川徹上席国税調査官を講師にお招きし、事前に経営者から聞き取った疑問点を中心に説明いただき、円滑な対応に向け疑問点が解消できました。